

夏への思い あふれた決意



上

総社南3年 井元敦也君

背番号「8」の中堅手で、打順は1番。俊足が武器の総社南・井元敦也君(3年)は久しぶりに、そんな立場で打席に入った。大股に構え、バットを長めに持つ。

狙っていた外角の球を振り抜くと、打球がライト前へ抜けた。5月9日、岡山市中区にある就実のグラウンドでの岡山城東戦。絶好調の井元君はこの試合、さらに3本の安打を重ねた。

試合は県内の監督有志が今季、控え選手らのために立ち上げた「桃太郎リーグ」。21校が参加する準公式戦で、七つのリーグに分かれ3校が総当たりする。総社南は岡山城東、就実が対戦相手となった。



桃太郎リーグで首位打者になった井元敦也君。5月9日、岡山市中区、家族提供

首位打者 次は「レギュラーとして」

「肩の力が抜けて、純粋に野球が楽しめた」と井元君は振り返る。1勝1敗だったが、2試合で7打数6安打。「公式戦」でフル出場するのは高校生活初めてだ。このブロックの「首位打者」にも輝いた。

出場メンバーの8人が控えの3年生。会場には多くの保護者が応援に訪れ、井元君の両親の姿もあった。「敦也」の名はプロ野球の名捕手から父がつけた。その父に「よく打てな」と声をかけられ、久しぶりに活躍する姿を見せられてよかった、と思った。

この直前の春の県大会で、総社南は快進撃を続けた。岡山理大付、関西、おかやま山陽を連破し、創部初の4強に。チームのムードは最高潮だった。

部員数は3年生だけで20人。1、2年生を入れると50人を超える。背番号「18」でベンチ入りしたが、井元君には「あるかも」と思った代走の出番すらなかった。チームの躍進を喜ぶ一方、内心は複雑だった。「もっと冬に練習しておけば」と力不足を悔いた。

桃太郎リーグでアピールする――。そんな気持ちは強く、6本の安打を放った後には、コーチのサインではなく自らの判断で送りバントを成功させた。今持てる力を出し切れたと思う。

5月末の練習後。総社市のグラウンドで、桃太郎リーグ首位打者の表彰式があった。板谷好通監督(43)から「Leading Hitter 2021」とプリントされたアンダーシャツを受け取ると、顔がほころんだ。

「支える楽しみから(試合に)出る楽しさを知った」とみんなの前で語るうちに、胸にあった思いが口を突いて出た。「夏に向けてレギュラーとして活躍できる選手になりたい」

桃太郎リーグの目的には控え選手が実力をつけ、チームの底上げにつなげることもある。板谷監督は言う。「自信をつけた井元の存在は、3年生全員に刺激になった」

夏の岡山大会の開幕が10日に迫る。先発メンバーに名を連ねる、という決意は変わらない。だが「どんな出場であれ、全力でプレーする。チームのために力を尽くす」。口にしなくても、3年生はみんなそう思っているはず。桃太郎リーグに挑んだ経験は、自分を一回り大きくしてくれた。

(雨宮徹)

「控え選手に晴れの舞台を」という監督有志の思いから、県内で始動した「桃太郎リーグ」。この特別な試合から選手たちは何を感じ、何を得たのか。



白球の

高校

第103回
集を8日付紙
ームのメンバ
ージなど、盛

新型

新たな感

テレビ、新聞で注目の栄養補助食品

健康のために、
「ユーグレナ」